

令和4年度
ひょうご
オンリーワン
企業

再認定



特許技術をコアに
こだわり抜いた商品を
生み出し生活を豊かに

株式会社千石

代表取締役社長 千石 滋之 氏

■会社概要

所在地 加西市別所町395
電話 0790-44-1021
FAX 0790-44-2191
URL <https://www.sengoku.jp/>
従業員数 345名
資本金 9,600万円
設立 1963年1月（創業1953年）
代表者 代表取締役社長 千石滋之

■事業概要

アラジン石油ストーブ・ファンヒーター・オーブントースター・電気ストーブ等の製造・開発、家電製品・調理器具のOEMメーカーおよび住宅設備機器の部品製造

■PROFILE

1976年加西市生まれ。2001年に株式会社千石に入社。創業70周年を迎える今年2023年3月に3代目代表取締役に就任。先人たちが築き上げた事業基盤を受け継ぎながら、次世代の人達と共に100年・200年企業を目指して、新たなステージへとチャレンジを続けていく。



—「ひょうごオンリーワン企業」に認定された反響はいかがでしたか。

2017年に「ひょうごオンリーワン企業」の認定を受けたことをホームページや就職情報サイトに掲載していて、採用活動には確実にプラスに働いています。若手に聞いてみると、親御さんや友人から「いい会社で良かったね」と言われるそうです。モチベーションアップにつながっていますし、会社に対する自信も深めているようです。取引先や地元の企業からは「千石さんも認定されましたね」といったお声がけをいただくこともありました。今回、再認定いただいたことも非常に光栄で、ありがたく感じています。

—認定後5年間で変わった点をお聞かせください。

フィリピン工場の操業を開始したこと、中国に千石貿易（惠州）有限公司を設立したこと、加西インター産業団地に新工場を建築し、2023年春に本格稼働を始めたことが大きな変化です。

自社ブランド「Aladdin（アラジン）」に関しては、ほぼ毎年1つは新商品を出しており、

2021年9月に「アラジン グラファイト グリル&トースター」を、2023年3月に構想に5年の時間をかけた「アラジン コーヒーブリュワー」を販売。トースターが売れ出した頃から、トーストに合うコーヒーを提供したいと考えていました。それがようやく実現しました。

おかげさまで、グラファイトトースターの販売は累計270万台を突破。グラファイトトースターは加西市のふるさと納税の返礼品にもなっています。お客様に買っていただいた後も楽しく美味しく使っていただきたいという思いから、レシピの発信にも力を入れ始めました。おすすめのレシピを紹介するサイト「Aladdin-Recipe（アラジンレシピ）」を構築したり、各種SNSを使ったり。これらは若手が中心になって取り組んでいます。作っては食べて、そのたび美味しいにおいが漂う。以前にもまして会社が明るくなってきたと感じています。

アラジンの認知度は上がりましたが、千石が製造販売していることはあまり知られていないため、企業表彰にも挑戦してきました。2021年には、経済産業省特許庁が実施する「知財功労



賞」において、知的財産権制度活用優良企業として「特許庁長官表彰（商標）」を初受賞。成長している姿や取り組みが評価されることはいれしく思います。

—30年前から海外に拠点を構えていらっしゃいます。

ものづくりメーカーとして、製造拠点をしっかり構えています。日本の各製造工場以外にフィリピン、そして中国に2つの製造拠点を有し、当社がつくりだしたさまざまな商品を世界各地のお客様にご愛用いただいています。フィリピンでは日本向けのトースターを、中国では世界各国へ販売する多種多様な商品を、日本では付加価値商品、多品種少量生産品を扱う、三極製造体制を整えています。海外と日本、それぞれのメリット・デメリットを考慮した上で、改めて日本国内での完成品の製造力強化に取り組んでいく予定です。

アラジンシリーズがヒットしたおかげで、今までお声がかからなかったような新しい取引先や大手企業と出会う機会が増えました。遠赤グラファイトヒーターが鍵になっていますが、それ以外の分野の新規開拓も進んでいます。もちろん地道な営業活動にも余念はありません。

—特許技術「遠赤グラファイトヒーター」についてお聞かせください。

イミド結合を含む高分子素材である「ポリイミド」のシートを熱分解し、結晶化してグラファイトシートに加工します。独自の技術でグラファイトシートにスリットを入れ、電気が通りにくい形にすることで、高温で発熱する「遠赤グラファイトヒーター」ができあがります。熱伝導率は金や銀、銅よりも高く、鉄の10倍を誇ります。グラファイトヒーターはわずか0.2秒で発熱が可能。一般的なヒーターと比較しても圧倒的に速く暖め始めることができます。また、グラファイトヒーターが放出する赤外線は、水



累計270万台を突破したグラファイトトースター

分を温めるのに最適な波長なので、人を暖めるのにも、食材を温めるのにも、非常に効率がよいという特長があります。

—シェアを伸ばすために工夫していることについてお聞かせください。

アラジンについては、各種SNSやWeb媒体を使ってネット集客を図り、そちらは小さいながらもそれなりの効果が出始めています。一方で、社内で分析してみるとリアル集客が弱いことが分かりました。そこで、2022年の秋に、購入対象店舗にてグラファイトトースターシリーズをお買い上げのお客様に向けてキャンペーンを実施したり、什器を入れて展示スペースを設けたり、といったことに取り組みました。

—技術を維持向上するためにどんなことに取り組んでいますか。

開発や品質保証と同じフロアにコールセンターを設けています。お客様からの意見を目に見えるところに貼りだし、情報交換しつつ、課題解決のためにどうすればいいか、日々やり取りしています。自由に議論する雰囲気根付いているので、アイデアや意見が出やすく、それらが新たな技術や改良に結びついています。

また、日本国内でのものづくりを見つめ直そうと大きく舵を切りました。海外の製造拠点をうまく活用しながら、日本の工場もレベルアップしないと市場で受け入れられることは難しく

なるでしょう。新規顧客を開拓するためには、新しい設備を導入していく必要があります。今までは既存顧客をメインに商品を製造してきましたが、これからは他の仕事も獲得しにいきたいので「千石であればできる」と自信を持って言えるような体制づくりにも取り組んでいます。

—今後のビジョンをお聞かせください。

当社には自社ブランド、OEM、部品という3つの事業分野があります。すべてにおいて、企画、開発・設計、製造、販売、アフターサービスまでという「メーカーとしての一貫したプロセス」をもって日々ものづくりに取り組んでいることが大きな特長と言えるでしょう。

自社ブランドに関しては、新商品を出す限りはちゃんとこだわったものを、本物だと言われるものをしっかり作っていくことを継続していきます。さらに2023年からは海外販売の展開に力を入れる予定です。東南アジアを中心とした動きを加速させようと、海外営業部隊が中心となって取り組んでいます。

部品事業に関しては、設備投資をやりながら千石アラジン工場を活用しつつ、時代に合う特長を持つ形で展開していきます。



センゴクアラジンガスの商品



本体外観、100年・200年企業を目指す

—これからオンリーワン企業を受ける企業に対してのメッセージをお願いします。

私たちが意識しているのは「特長」です。意外と自分たちでは気づかないもので、経営陣が気づいておらず、社員が気づいているということも多々あります。コミュニケーションを頻繁に取りながら、自分の会社の特長はどこなのかを見極め、仕事に、事業に取り組むと、自ずとそれがオンリーワンになっていくのだと思います。当社は早期に海外に進出し、工場や現地商社を作ってもものづくりをしてきました。日本でのみ展開されてきた会社の工場を見学すると、こんなことまで自社でやられているのかと驚かされます。しかし、何十年もかけてそれを積み上げてらっしゃるので、そのすごさに気がついていないのです。今しっかり生き残っている会社には必ずオンリーワンのものがある。私はそう信じています。

TECHNOLOGY

グラファイト ミニグリラー

家庭で気軽に本格焼肉が 楽しめる卓上調理器

特許技術「遠赤グラファイト」が0.2秒で発熱。遠赤輻射熱は、フライパンなどへの伝導熱とは異なり、肉の表面に余計な熱を与えず、ふっくらと焼き上げます。食材から出た脂が、プレートの上で熱されることなく水トレイへと落ちるので、イヤなおいや煙が発生しにくい仕組みです。さらに、「弱火/減煙/強火」の3つの火力切り替え付き。「減煙モード」は煙が気になる時におすすめです。消費電力を750Wに抑えた省エネ設計も魅力のひとつです。



NEWS&TOPICS

千石アラジン工場

加西インター産業団地に 新工場を建設

2022年、加西インター産業団地に新工場を建築、2023年春に本格稼働しました。給湯器メー

カー様より完成品の製造受託の話をいただき、さらなる技術力向上を目指し、新たなチャレンジとして完成品の製造に取り組んでいます。また、自社ブランドであるアラジンシリーズの一部は、基幹部品を加西市で製造し、完成品は海外工場で製造しています。新工場ではMADE IN KASAI、MADE IN JAPANとして製造する国内マザー工場にと計画しています。

